

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 ことばはうすさくら辻堂教室

公表日 2026年 3月 20日

利用児童数

7

回収数

5

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	3			2		
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	3			2		
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	4			1		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	4			1		
適切な支援の提供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	3	2				
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	4			1		
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	3	2				
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	3	2				
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	4	1				
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	4	1				
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他の子どもと活動する機会がありますか。	1	1	1	2		
保護者への説明等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	5					
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	4			1		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	1		2	2		
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	3	2				
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	2	2	1			
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	5					
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	1	1	1	2		

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	3	1		1		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	3	2				
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	4		1			
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	3	1		1		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	3			2		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	2	1		2		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	3	1		1		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	4			1		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	5					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	5					
	29	事業所の支援に満足していますか。	5					

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		こぼんはうすさくら辻堂教室		公表日		2026年 3月 20日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	3	1	相談（面談）室も、5.2㎡あり、十分なスペースを確保している。生徒様が落ち着くスペースがあるところが良い。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4		法令を遵守し、福祉分野での経験を専門性を備えたスタッフ配置に努めている。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4		活動内容や生活支援で必要な絵カードなど、目で見えてわかる内容となっている。	保護者様の要望に応じて最善を尽くしたい。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4		日々の消毒・換気も含めて清掃チェックリストに基づいて実施している。	引き続きクリーンネスを継続し、照明や騒音対策、柔軟な家具配置の見直しを定期的に行う。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4		課題の実施、体を動かすレクリエーションなど、必要に応じて生徒様が選択できる環境になっている。		
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	3	1	全職員が意見を共有しやすい場を設け、具体的な課題解決に向けたアイデアの収集と振り返りをしている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		リトムノート（独自の連絡帳）や評価表等からいただいた保護者様のご意見については、ミーティング等を利用して職員間で共有し、改善する努力をしている。	保護者評価表の結果を定期的に分析し、保護者の意向をより反映させる。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		職員会議、業後のクルーミーティング等で意見交換する機会があり、業務改善につなげることができている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	2	第三者評価は行っていない。	今後必要性を検討する。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4		虐待防止、身体拘束、BCP（感染症、非常災害）、継続研修（年6回以上）採用時研修、段階別研修、その他の勉強会が定期的にある。		
適切な支援の場	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4		順次、作成・公表できている。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	4		アセスメントシートを使用し、生徒様の状態像や特性を把握するように努め、生徒様、保護者様のニーズや課題に沿った計画を作成している。	適宜開催のカンファレンス、スタッフ会議で詳細を検討して職員間で共有していく。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4		生徒様にとって必要な支援を個別活動と集団活動を組み合わせて提供できるように考慮して作成している。	適宜開催のカンファレンス、スタッフ会議で詳細を検討して職員間で共有していく。	
	14	児童発達支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4		必要に応じて職員間で話し合いを行っている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4		事業所にて統一されたアセスメントツールを使用している。		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4		支援計画にガイドラインの項目を設定し、自由遊び、自立課題、設定遊び、集団活動など、様々な活動を組み合わせて、具体的な療育の実施をしている。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4		ミーティングや職員間でのコミュニケーションを通じて活発にアイデアを出し合っている。		

児 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4		個別の目標に対して、スモールステップにより定着を目指している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	4		モニタリング、支援会議を通じて、特性や発達段階に配慮した計画を作成している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4		毎朝、必ずスタッフミーティングを実施している。活動内容や支援目標を確認（QCサークル、PDCAサイクル）し、安全に遂行できるよう見通しを立てて実施している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4		日々気づいた点を職員同士で話し合い、振り返りを行い、次の支援に活かしている。	振り返り内容を簡潔に記録し、次回の支援時に個別支援計画や活動プログラムへ具体的に反映できる仕組みを強化していく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4		記録は毎回詳細に取っており、職員間で共有している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4		半年に1回は必ずモニタリングを行っている。	モニタリング結果を個別支援計画の具体的な目標や活動プログラムに反映し、定期的な見直しサイクルをより確実に運用する。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4		管理者又は児童発達支援管理責任者が参加している。事前に、職員間で情報共有を行い資料を準備している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3	1		関係機関との連携内容や情報共有の方法を明文化し、定期的に事例検討の場を設けてネットワークの効果的な活用を促進していく。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3	1	担当者会議を通じて、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3	1		就学前の支援機関と情報交換の仕組みを整え、生徒様の特性や支援内容の引継ぎを円滑に行える連携体制を構築していく。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	3	1	児童発達支援センターとの連携は対象者の年齢もあるせいか行われていない。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	3	1		
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4		リズムノートや送迎時、必要時は電話連絡をしてお伝えしている。面談でもお話をさせていただいている。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	2		日常的なアドバイスに加え、ペアレントトレーニングや専門的な家族支援プログラムへの参加機会を提供し、保護者の対応力向上を体系的にサポートしていく。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4		保護者面談時に、資料を用いて説明している。		
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4			相談が聞かれた際には、その都度対応していく。	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	4		支援計画を作成し、保護者に説明の上、同意のサインをいただいている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	3	1	送迎時、見学時に保護者へお声がけし、タイムリーな支援を行っている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	1	3		保護者同士だけでなく、きょうだい同士の交流機会も定期的に企画、開催し、家族全体の理解やつながりの場を提供していく。
	40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4		相談や申し入れがあった場合、電話や面談にて迅速かつ適切に対応するよう努めている。苦情受付・解決担当者は重要事項説明書に記載し、契約時に説明している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	4		さくらだよりを毎月発刊し、活動概要や行事予定などをお知らせしている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4		職員向けの研修を実施したり、マニュアルを敵的に見直して、個人情報は必ず同意を取り、取り扱いは十分に注意している。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4		地域の方を招待して行事を行うことは実施できていない。	お祭りやイベント、法人での行事、地域の消防署と連携して行っている防災訓練などの行事に地域の方を招待していく。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4		マニュアルの内容を定期的に見直し、実際の訓練で想定外の課題が出た場合に、迅速に改善できる仕組みを強化している。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4		防災訓練やその他の訓練の結果を振り返り、想定外の課題や改善点をBCPに反映。より実践的で柔軟な対応ができる体制を強化している。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	4		保護者面談時に確認、周知している。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4		医師の指示内容の更新情報を保護者経由で更新し、職員全員が対応手順や緊急時の処置を確実に理解できるようにしている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4		安全計画の研修、地震・火災を想定した避難訓練を定期的実施している。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4		さくらだよりにて、取り組み内容や訓練の様子を周知している。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4		毎日のミーティングで、ヒヤリはつと事例について話し合い、検討・再発防止に向けた取り組みを行っている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4		虐待防止委員会・身体拘束適正化委員会が主体となって研修を行い、全職員に周知徹底している。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	4		前例がない。		